

はじめに

静清信用金庫「地域密着型金融推進計画」は、金融庁より示された「地域密着型金融の機能強化推進に関するアクションプログラム」に基づき、地域の特性・当金庫の特性・リレーションシップバンキングの機能強化計画の反省を踏まえ当金庫のビジネスモデルを明確にした上で平成17年8月に策定・公表致しました。

今般、平成17年度の上期が終了したことに伴い、同期間での進捗状況について取り纏め、公表させていただきます。

本期間は計画遂行の第1段階ではありますが、2年間での計画を完全に遂行するためには、スタートで計画遅れがあってはその後計画遂行にも大きな支障が生ずることになるため、本期間は計画遂行に当たっての最も重要な時期であるとの認識に立ち、また、リレバン機能強化計画である程度の態勢は整備しており、始めから実効をあげることを意識して取り組みました。

その結果、詳細は後述致しますが、ランクアップ数の増加・ビジネスマッチング成約件数の大幅増加・コア業務純益ROAの前年同期比アップ等実効を伴った形で計画はほぼスケジュールどおりに進捗致しました。

本報告では、大項目毎（1．事業再生・中小企業金融の円滑化、2．経営力の強化、3．地域の利用者の利便性向上）に進捗状況を概観し、個別の取組み状況について実施状況と自己評価・今後の課題等を記載しました。

地域の当金庫のご利用者をはじめ関係各位におかれましては、本報告をご覧頂き、当金庫の地域密着型金融への取組みをご理解くださるようお願い致します。

## 具体的進捗状況

### 【1．事業再生・中小企業金融の円滑化】

本項目は、地域密着型金融を推進するために最も重要な項目であるとの認識の下、また実際に目に見える形での成果を残せるよう意識して計画を遂行しました。その結果、17年度上期にスケジュールリングした事項については概ね計画どおり実行され、かつ計数面での成果もほぼ満足のいく形であげることができました。

詳細は以下の個別の取組み状況に記載してありますが、主要な成果を抽出すると次のようになります。

ビジネスマッチングへの取組みを強化した結果、成約件数が19件となり、数値目標として掲げた年間10件を半年で大幅に上回ることができました。

当金庫の経営改善指導によるお取引先での経営改善（ランクアップ）先数が23先と半期ベースではリレバン時を上回る結果となりました。

シンジケートローンへの取組みにおいてはじめてアレンジャーを務めました。

担保・保証に過度に依存しない融資への取組みのため、スコアリング商品を含んだ融資新商品を複数発売し、相応の実績を計上できました。

以上のように着実に成果はあがってきていますが、次のような課題も残されており、下期から18年度にかけて対策を講じていく必要があると認識しています。

ビジネスマッチングの情報内容・成約内容の質的向上

経営改善支援先で残念ながらランクダウンとなったお取引先があることから、ランクアップ努力とあわせランクダウン防止にも力を注ぐ。

目利き能力の更なる向上

説明態勢の営業店現場での更なる徹底

以下、詳細について個別の取組み事項単位でご報告致しますが、記載してあります17年度スケジュールは年間ベースですのでお含み置き願います。

【要請事項単位の具体的取組みと進捗状況】

要請事項	取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況		
		17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等	
(1) 創業・新事業支援機能等の強化	融資審査能力の向上	<p>当金庫の営業基盤・融資構造を勘案した上で、その特性に合致した融資審査体制への移行を目指すと共に、関連部署・外部との連携強化による目利き能力の向上を目指します。また、内部・外部研修による目利き能力のブラッシュアップも継続実施します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレジットポリシーの見直しを中心として「信用リスク管理規程」を見直しします。</li> <li>・融資部内の業種別調査担当体制を見直し、担当者による業種動向に関する勉強会を実施します。</li> <li>・本部審査役・営業店担当者を対象に経営相談部及び外部出向者による業種別勉強会を実施します。</li> <li>・営業店担当者を対象に融資審査能力や業種特徴把握のための各種研修を実施します。</li> <li>・業種別動向調査、業種別ベンチマーク、業種別売上推移に関する体制整備をします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレジットポリシーを明確化した「信用リスク管理規程」を17年4月に改訂し、その周知を図るべく業務会議を開催し、説明を行いました。</li> <li>・融資部内における業種別調査担当者を当金庫の融資構成の特徴を勘案した上で見直ししました。</li> <li>・目利き力向上による審査能力アップのため、「融資審査のポイント講座」「融資能力向上研修」「若手勉強会」等の研修を開催しました。</li> </ul> <p>以上より、17年度上期においては計画どおりの進捗となっており、融資審査能力アップについて一定の成果を得たと認識しています。</p>
	起業・事業展開に関する情報提供、創業・新事業の成長段階に応じた適切な支援	<p>構築済みの産学官連携ネットワークの更なる活用及び外部機関との連携を中心として企業の高度化・高付加価値化を支援していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の「スタートアップファンド」対象先のファイナディング・中小企業支援センターとの情報交換及び新事業活動促進法の申請支援他、連携方法を検討します。</li> <li>・中小企業金融公庫・商工組合中央金庫等との情報交換を継続実施します。</li> <li>・中小企業金融公庫等との連携による「商談会」開催への協力・支援をします。</li> </ul>	<p>静岡県「スタートアップファンド」設立が10月になったため、対象先のファイナディングは未実施でありましたが、以下の事項を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業支援センター（しずおか産業創造機構）へ出向中の職員を通じた、支援機関連携促進会議へ参加し中小企業支援制度等に関する情報を入手し、営業店を通じてお取引先に情報提供しました。</li> <li>・中小企業新事業活動促進法については、経営相談の一環として申請書類作成を支援しています。</li> <li>・中小企業金融公庫との情報交換会に参加しました。</li> </ul> <p>今後は中小企業支援制度等についてせいしんビジネスクラブの会員等に直接情報提供してより有効な活用ができるよう目指します。また、上期未実施であった静岡県「スタートアップファンド」の対象先のファイナディングに注力します。</p>

要請事項	取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
		17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
(2) 取引先企業に対する 経営相談・支援機能 の強化	経営相談・支援機能 の強化  現在、実施している経営相談や企業経営に資する各種情報提供を継続します。またビジネスマッチングやM&A情報の積極提供による事業拡大、多角化等のニーズに対する支援を強化していきます。 尚、ビジネスマッチングについては、17年度10件・18年度20件の成約を目標とします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診断技術の向上及び取引先支援に資する診断ソフトを開発します。</li> <li>・ビジネスマッチングやM&amp;A情報の積極的提供を行います。</li> <li>・企業経営に有用な各種調査の実施及び経営情報を提供します。</li> <li>・事業承継に係る各種情報提供及び個別相談を実施します。</li> <li>・SBC会員を中心とした商談会を開催します。</li> <li>・「財務管理サービス人材育成システム開発プログラム」へ協力します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診断技術の向上及びお取引先支援に資する診断ソフトとして「キャッシュフロー財務分析ソフト」の作成に着手し、下期には完成の目処がたっています。</li> <li>・ビジネスマッチングについて経営相談部職員が全営業店に対して推進方法・手順等について臨店指導し、ノウハウ・意識の向上を図った結果、上期において情報73件、成約19件の実績となり、数値目標として掲げた年間10件の成約を既に達成しました。また、11月に名古屋で開催された東海地区信協主催の「ビジネスマッチングフェア2005」への参加をPRし、お取引先20社の参加が決定しました。</li> <li>・M&amp;Aについては信金キャピタル担当者を講師に招き、支店長を対象に案件情報活用等の勉強会を開催しました。</li> <li>・各種調査及び経営情報提供としては、以下を実施、新聞等で公表するとともに店頭等で配布し、各方面から高い評価を得ました。 【各種調査】 公示地価動向マップ(4月) 事業承継に関するアンケート(4月) 管理者意識調査(5月) 中元贈答実態調査(6月) 素材価格動向調査(7月) 2007年間問題調査(8月) 【経営情報】 平成17年度中小企業関係税制改正のポイント(5月) 新事業活動促進法レポート(6月) 会社法改正レポート(6月) 不動産登記法レポート(9月) 地区経済誌「View」発行(5・7・9月)</li> </ul> <p>下期に向けてはM&amp;Aの活性化・ビジネスマッチングの質の向上等に取組んでいきます。</p>

要請事項		取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
			17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
<p>要注意先債権等の債権健全化に向けた取組みと実績の公表</p>		<p>経営改善支援活動とモニタリング体制の強化及び支援ノウハウの向上と営業店へのインセンティブ付与によるモチベーションアップ等に取り組むことにより要注意先債権等の健全債権化や不良債権・要注意債権等の新規発生防止を目指します。</p> <p>また、取組み実績の公表についても内容充実の上、継続的に取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営改善支援対象先抽出方法及び取組み方法の見直しをします。</li> <li>・経営改善支援月報、ローンレビュー月報の管理体制を強化します。</li> <li>・債務者区分のランクアップ実績を営業店の業績評価制度に採り入れます。</li> <li>・経営改善支援業務の規程を作成します。</li> <li>・ランクアップ実績の検証を行います。</li> <li>・営業店部店長とヒアリングを実施します。</li> <li>・17年度下期公表分より、従来の公表内容に加え、ランクアップ先の業種・ランクアップ要因等についても追加公表します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・17年度の経営改善支援対象先 168 企業グループ 193 先を決定し、その内 23 企業グループ 23 先のランクアップに結びつきました。</li> <li>尚、ランクアップ実績の詳細につきましては、本項の最終頁に一覧形式で掲載してあります。</li> <li>・経営改善支援対象先に対して「事業計画・経営計画策定支援のアンケート」を行い、お取引先の意向と認識を確認しました。</li> <li>・営業店業績評価制度にランクアップ実績を評価する項目を採り入れ営業店のモチベーションアップを図りました。</li> <li>・経営改善支援月報及びローンレビュー月報の提出状況のチェック体制を構築しました。</li> <li>・「2005年版ディスクロージャー誌」で16年度の経営改善支援状況及びランクアップ数を掲載しました。</li> <li>・17年度上期の経営改善支援・ランクアップ状況の公表内容について検討し、ランクアップ実績について業種別・要因別に公表することを決定しました。</li> </ul> <p>しかし、ランクアップも含め経営改善度合いにバラつきがあることが課題であり、より関与の度合いを高めていくことが必要であると認識しています。また営業店職員の知識や能力の向上も必要と認識しています。</p>

要請事項	取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況		
		17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等	
(3) 事業再生に向けた積極的取組み	事業再生に向けた積極的取組みと情報開示等	<p>事業再生に向けた取組みの効果的・効率的実施を通じた具体的な成果の実現により地域経済の活性化を目指します。そのために再生ノウハウの共有化と向上を図ると共に、個別案件毎の検討を行った上で、過剰債務の解消や外部環境に対応した事業再構築等を視野に入れた積極的な取組みを実施します。</p> <p>また、コンプライアンスに充分配慮の上、再生事例やノウハウの提供を積極的に実施することにより、当金庫のお取引先だけでなく、地域全体の活性化を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業金融公庫との間で事業再生に関する勉強会及び情報交換を実施します。</li> <li>・(社)金融財政事情研究会主催の事業再生に関する研修に参加します。</li> <li>・中小企業再生支援協議会と支援対象先について協議します。</li> <li>・静岡中小企業再生ファンド、サービサーを活用した事業再生及びプリパッケージ型事業再生の対象先を検討します。</li> <li>・DIPファイナンス・エグジットファイナンスの対象先を検討します。</li> <li>・プリパッケージ型事業再生の問題点を整理します。</li> <li>・全信協主催の研修で講師として参加し、再生事例等について情報提供します。</li> <li>・他機関と情報交換を実施します。</li> </ul>	<p>静岡県中小企業再生支援協議会取組み案件は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年4月に当金庫メインお取引先の再生計画が1件策定完了しました。</li> <li>・平成17年7月に当金庫はサブとして参加しているお取引先の再生計画が1件策定完了しました。</li> <li>・平成17年度上期は3企業グループ7社の相談を持ち込みましたが、取り上げには至りませんでした。</li> <li>・平成17年6月に(社)金融財政事情研究会主催のセミナーに参加し事業再生手法等の講義を受けました。</li> <li>・平成17年7月に中小企業金融公庫より講師を招いて勉強会を開催し、DIPファイナンス・DDS等の説明を受け、情報交換も行いました。(本部担当者出席)</li> <li>・その他、中小企業再生支援協議会・監査法人トーマツ等のセミナーに参加しました。</li> </ul> <p>また、情報開示については、当金庫の事例について全国信用金庫協会主催の研修で講師を務め、情報提供を行いました。事業再生に関する知識の習得はある程度進んできているので下期にかけては事業再生対象先の選定を再検討していきます。更に中小企業再生支援協議会への相談案件も増加させたいと考えています。</p>

要請事項	取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況		
		17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等	
(4) 担保・保証に過度に依存しない融資の推進等	キャッシュフローを重視し企業の将来性や技術力を評価した融資の取組み強化	<p>企業の定性面（将来性・販売力・技術力等）の評価を的確に行うための取組みを強化すると共に、事業から生み出されるキャッシュフローを重視することにより、担保・保証に過度に依存しない融資の更なる促進を図ります。また、導入した原則、無担保・第三者保証人不要の融資商品の検証を行い、新たな商品開発に活かしていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローンレビューの管理体制を見直しします。</li> <li>・スコアリング審査による融資商品を発売します。</li> <li>・小口原則無担保当座貸越商品を発売します。</li> <li>・営業店担当者を対象に融資審査能力や業種特徴把握のための各種研修を実施します。</li> <li>・経営計画作成支援ソフト（MAP）によるシミュレーション依頼に関する体制を整備します。</li> <li>・定性面評価を織り込んだ新しい融資調書を作成します。</li> <li>・企業診断手法等を内容とした勉強会を開催します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則無担保・第三者保証人不要の融資商品を新規に取扱いまたは継続取扱いし相応の実績を計上できました。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ご近所ローン」(既存商品)</li> <li>・「ご近所当貸」(17年4月発売)</li> <li>・「ご繁盛融資」(スコアリング商品として17年4月発売)</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営計画作成支援ソフト（MAP）によるシミュレーション依頼に関する体制を整備しました。</li> <li>・「融資審査のポイント講座」「融資能力向上研修」「若手勉強会」において業種特性を加味した融資審査について講義しました。</li> <li>・ローンレビュー月報の提出状況の管理体制を整備しました。</li> </ul> <p>以上のとおり計画どおり進捗しており、融資新商品の取扱いや各種研修を通じて企業の定性面を評価した融資審査能力は向上したと認識しています。今後とも不動産担保・保証に過度に依存しない融資審査のため目利き能力の向上及び体制整備を図っていきます。</p>
	既存の包括根保証についての見直し及び第三者保証利用にあたっての留意	<p>「民法の一部を改正する法律」に基づき新たに改正した保証約定書を的確に運用していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・融資役員者を対象にした会議により再徹底を図ります。</li> <li>・任意勉強会を開催します。</li> <li>・監査部による臨店検査を行い運用状況をチェックします。</li> </ul>	<p>計画どおり以下の事項を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年6月融資役員者対象の業務会議開催</li> <li>・平成17年7月任意勉強会開催</li> <li>・監査部による全店臨店検査（17年7月までに全店実施）</li> </ul> <p>また、運用面においても17年4月1日より包括根保証の新たな取扱いは行っておりません。今後とも保証契約の締結や見直しについては的確に運用していきます。</p>

要請事項		取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
			17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
	中小企業の資金調達 の手法の多様化等	中小企業金融の円滑化のため、中小企業の資金調達手法の多様化等に対応した取組みを強化します。そのために、既に実績のある手法については更なる活用の促進を図り、未だ実績のない手法については当金庫にとっての適合性の観点を含めた研究と実現に向けた取組みを図っていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンジケートローン（アレンジャー）の組成をします。</li> <li>・中小公庫によるＣＬＯについての勉強会開催及び関連部に対してアンケート調査を行います。</li> <li>・信金中金担当者による研修会を開催します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンジケートローンのアレンジャーを1件務めました。</li> <li>・平成17年5月に中小企業金融公庫担当者によるＣＬＯ説明会を開催し、関連部が出席しました。その後各部担当者にアンケート調査を実施した結果、現時点では収益面と信用リスク面とのバランスに疑問が残るとの意見がありました。</li> <li>・17年7月に信金中央金庫主催の「新規与信形態に係る事例説明会」に参加しました。</li> </ul> <p>上期においては、シンジケートローンのアレンジャー担当が大きな成果でありました。下期にかけてはシンジケートローン及び私募債にプライオリティを置き、中小企業の資金調達の多様化について営業店への説明会を開催する等して（信金中金講師）推進を図っていきます。</p>
(5) 顧客への説明態勢の 整備、苦情処理機能の 強化	顧客への説明態勢の 整備	規程をはじめとした態勢整備は、完了しているため、営業店での定着化とレベルアップを図っていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・融資役席者を対象とした会議により再徹底を図ります。</li> <li>・任意勉強会を開催します。</li> <li>・「保証意思確認記録票」と「約定書写等の受領書」の徴求状況のチェックを行います。</li> <li>・「民法の一部を改正する法律」の施行に伴う「中小・地域金融機関向けの監督指針」の一部改正による「融資事務規程」及び「保証取扱規程」の一部改正を行います。</li> <li>・監査部による全店臨店監査により説明態勢の定着度合いを検証します。</li> </ul>	<p>計画どおり以下の事項を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年6月融資役席者対象の業務会議開催</li> <li>・平成17年7月任意勉強会開催</li> <li>・「保証意思確認記録票」と「約定書写等の受領書」の写しを毎月本部へ提出させ徴求状況等についてチェックしています。</li> <li>・「民法の一部を改正する法律」の施行に伴う「中小・地域金融機関向けの監督指針」の一部改正による「融資事務規程」及び「保証取扱の手引き」の一部改正を行いました。（17年8月）</li> <li>・監査部による全店臨店検査により説明態勢の定着度合いを検証しました。（17年7月までに全店実施）</li> </ul> <p>以上のとおり計画どおり進捗し、また態勢も整備されているものの、未だ営業店での理解不足や記録票の記載内容の不備等もあり更なる徹底が必要と認識しています。</p>

要請事項		取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
			17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
	相談・苦情処理機能の強化	<p>現行苦情処理体制の定着化を図り、またお客さまからの苦情・ご意見を十分に分析した上で、経営に活かすとともに職員に還元し、再発防止に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス委員会へ苦情事例の報告を行います。</li> <li>・研修会の開催を検討します。</li> <li>・苦情事例を取り纏めの上、ブロック会議等を利用して営業店にフィードバックして、再発防止に努めます。</li> <li>・前年度苦情事例内容を分析の上、営業店に還元します。</li> <li>・相談・苦情がルールに沿って報告され処理されているかについて営業店へ臨店し、指導します。</li> <li>・苦情処理規程の見直しを行います。</li> </ul>	<p>スケジュールどおり以下の事項を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全営業店の臨店指導（4月・5月）</li> <li>・営業店苦情処理担当者を対象に苦情事例及び対応研修を実施（7月）</li> <li>・苦情事例・対応のフィードバック（4月・7月の支店長会議及び5月・6月・8月・9月のブロック会議）</li> <li>・苦情内容・傾向を分析の上、再発防止策を取り纏め営業店へ資料還元。</li> <li>・コンプライアンス委員会での苦情に関する報告（7月）</li> </ul> <p>以上のとおり各種手段により苦情分析・再発防止に努めてきており、概ね計画は達成されたと認識しています。</p>
(6) 人材の育成		<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の研修内容をより充実させた形での金庫内研修を継続実施する他、外部研修への参加、通信講座の一層の受講奨励、外部専門家による研修を継続実施します。</li> <li>・取引先企業における実地での「目利き能力」向上も引き続き図ります。</li> <li>・創業時のスタートアップ支援の「目利き能力」を向上させるため「(財)しずおか産業創造機構」に職員を継続派遣します。</li> <li>・業種別の経営支援能力を向上させるため、取引先への出向者を講師とした業種別研修を行います。</li> <li>・職員の意識向上を図るため、支店長会議の指示事項等において経営改善支援や目利き能力の重要性について言及していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 創業・新事業支援等の能力向上 中小企業大学校への職員派遣「(財)しずおか産業創造機構」に職員を継続派遣</li> <li>(2) コンサルティング能力の向上 営業スキルアップ研修 法人FP講座(県協会) 企業診断講座(県協会) 企業分析講座(県協会) 中小企業診断士による夜間勉強会 融資審査ポイント講座 中小企業診断士のブラッシュアップ研修(中小企業診断協会)</li> <li>(3) 事業再生に向けた研修 企業再生支援講座(全信協) 経営改善支援事例講座 M &amp; A講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールどおりの金庫内研修及び外部研修受講を実施しました。(14講座延べ287人)</li> <li>・4月より中小企業大学校へ1名を継続派遣しました。17年9月時点の金庫内中小企業診断士は累計で21名です。</li> <li>・7月より(財)しずおか産業創造機構へ1名を継続派遣しました。</li> <li>・8月より「せいしんビジネスクラブ」ベーシックコースへ職員3名を派遣しています。</li> </ul> <p>以上により経営改善支援や目利き能力の重要性について職員の意識向上は図られてきていると考えます。今後の課題としては職員個々の能力に合致した集合研修の実施、より実践的な研修、更には営業店での勉強会も必要と認識しています。</p>

要請事項		取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
			17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
			(4) 中小企業金融円滑化への取組み 業種別研修 審査トレーナーの実施(融資部) SBC会員企業へ出向く「目利き能力」向上研修 SBCベーシックコースへの職員3名派遣(年6回) 苦情の再発防止に向けた研修(営業推進部と協調) シンジケートローン・私募債等の取組み勉強会(融資部・信金中金) 等を17年度研修計画に沿って実施します。	

平成17年度上半期経営改善支援対象先のランクアップ先

平成17年度は経営改善支援対象先の見直しを行い、168企業グループ193先を支援対象先として選定し、お取引先企業の経営改善の実現に向けたアドバイスの他、経営改善計画書の策定支援や計画対実績の進捗状況の確認などを実施いたしました。

これにより、支援対象先の内、23企業グループ23先の経営改善に結びついております。

経営改善の要因としては、事業分野・内容の見直しによるもの(事業改善)が5先、業務の効率化やコストの削減等によるもの(業務改善)が7先、資産・負債の圧縮等によるもの(財務改善)が8先、売上・受注状況の好転等によるものが3先となっております。

【業種別・ランクアップ要因別内訳】

業種	要因					合計
	事業改善	業務改善	財務改善	売上好転		
製造業	1	2	1	1	5	
卸・小売業	1	0	3	1	5	
建設・不動産業	0	3	3	1	7	
サービス業	3	2	1	0	6	
合計	5	7	8	3	23	

## 【 2 . 経営力の強化】

本項目は、地域密着型金融を推進する中で、本業での地域貢献と並んで車の両輪であると認識して計画遂行に取組みました。いくら地域貢献を果たしてもその結果、自らの経営体力を低下させたり、コンプライアンス態勢が疎かになってしまっは本来の目的を達成したとは言えず、本末転倒になってしまっています。

以上のような認識の下、計画を遂行致しましたが、17年度上期に計画した事項はほぼ計画どおり実施することができました。

その中でも特に、個社別採算制度について試行が順調に進み、下期から本格運用に入れたこと、個人情報保護法の完全施行に併せ規程の整備・検証体制が整備されてきたこと更に数値目標として掲げたコア業務純益ROAが前年同期比でアップし、年間での16年度比アップに目処がたったことは大きな成果と捉えています。

しかしながら、下期更には18年度に向けて、リスク管理態勢の更なる充実・個社別採算制度の有効活用、貸出金利回りの低下抑制等の課題も残されています。

以下、詳細について個別の取組み事項単位でご報告致しますが、記載してあります17年度スケジュールは年間ベースですのでお含み置き願います。

【要請事項単位の具体的取組みと進捗状況】

要請事項		取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
			17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
(1) リスク管理態勢の充 実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク計量化の精緻化を進めます。</li> <li>・統合リスク管理態勢の実現を目指します。</li> <li>・パーゼル への対応準備を進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種セミナーへの参加、書物での研究により、リスク管理の高度化・パーゼル への対応・統合リスク管理についての情報収集と研究を行います。</li> <li>・信用リスク量をより保守的に見積もるべく算出の一部変更を行います。</li> <li>・倒産確率等の内部データの蓄積方法の検討をします。</li> <li>・パーゼル での自己資本比率算出のためのインフラ整備を行い、試算をします。</li> </ul>	<p>17年度上期は以下のような取組みを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・証券会社担当者を講師に招いて「新B I S規制とリスク管理」をテーマに勉強会を開催しました。(6月)</li> <li>・信金中金本部担当者から新B I S規制について情報収集しました。</li> <li>・信用リスク計量化手法をより保守的算出方法に一部変更しました。</li> </ul> <p>以上のような取組みを行いました。新B I S規制及び統合リスク管理に関する研究は未だ充分でなく、今後とも研究を進めていく必要があります。また新B I S規制での自己資本比率算出に向けてはシステム対応を含めて全金庫的対応で臨んでいきます。</p> <p>更に、倒産確率等の内部データ蓄積を進め、現在使用している倒産確率との比較を行い、リスク量の検証を行っていきます。</p>

要請事項	取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況		
		17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等	
(2) 収益管理態勢の整備と収益力の向上	<p>地域密着型金融の本質である地域と金融機関がともにWIN WINの関係を保つためには信用リスクに見合った適切な金利適用が重要であるとの認識の下、適正な金利設定のためのインフラ整備と運用面での実効性確保に努めていきます。</p> <p>尚、適正金利の確保等による収益性向上を測る指標として「コア業務純益ROA」を選択し、同比率を17年度・18年度とも前年度比アップさせることを目標とします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>格付金利の見直しを行います。</li> <li>格付金利に期間の概念を採り入れた「目安金利(金庫内の呼称)」を導入します。</li> <li>個社別採算制度を導入し、本格運用します。</li> <li>格付申請書を改正します。</li> </ul>	<p>17年度上期はスケジュールにどおり以下の事項を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>格付金利の見直し</li> <li>格付金利に期間の概念を採り入れた「目安金利(金庫内の呼称)」の導入。</li> <li>個社別採算制度の試行に入り、下期からの全店本格運用を決定した。</li> </ul> <p>以上のとおり計画どおりの進捗を果たし、また数値目標として掲げたコア業務純益ROAは17年度仮決算において0.44%となり、年度での計画達成に目処がついたものの内容的には前年同期と比較して貸出金利回の低下による貸出金利息の減少を余裕資金での運用利息と手数料収入でカバーした結果でありました。このことは地域密着型金融推進計画の趣旨であるリスクに見合った適正金利の確保を実現した内容ではないと認識しています。</p> <p>今後は本格運用に移行した個社別採算制度の有効活用等によりリスクに見合った適正収益の確保に向けて引き続き努力していきます。</p>	
(3) ガバナンスの強化	半期開示の内容充実	<p>地域の方に当金庫の経営や活動内容をより深く理解して頂くために、開示内容の検討を行い実施に移していきます。尚、検討の際には、業界申し合わせをも踏まえります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>17年9月期の開示内容を検討し、17年11月に半期ディスクロージャー誌を発行します。</li> <li>17年11月発行の半期ディスクロージャー誌に利用者の方からの質問や相談についてジャンル別にQ&amp;A方式で取り纏め掲載します。</li> </ul>	<p>17年9月期の半期開示内容について経営企画部内で検討を進め後記「3.(1)充実した分かりやすい情報開示」を実現する一環として「お客さまからよくあるご質問のQ&amp;A」を追加掲載することを決定しました。また、本項目を追加掲載するために全営業店にお客さまからよくある質問等についての調査を行いました。</p> <p>17年9月期の半期開示は11月に半期ディスクロージャー誌を発行しましたが、従来の記載内容に加え「お客さまからよくあるご質問」(3頁)及びトピックスを1頁追加し記載内容を充実した他、発行部数も1万部増刷し計25,000部としてより多くの方に配布できるようしました。(半期ディスクロージャー誌については当金庫ホームページに掲載してありますので、ご覧下さい)</p>

要請事項		取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
			17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
	総代会の機能強化等	<p>総代会制度の情報公開を継続的に進める他、一般会員からの意見・要望を収集する仕組みに取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総代会の傍聴について掲載した総代会の「お知らせ」を店頭掲示した総代会会場へ傍聴人席を設置します。</li> <li>・会員宛「総代会決議の通知」に総代会制度の概略を掲載します。</li> <li>・総代以外の意見を聴取し、経営に活かすべく「会員との意見交換会」を開催し、意見・要望を取り纏めます。</li> <li>・17年7月発行のディスクロージャー誌に総代会制度について引き続き掲載します。</li> </ul>	<p>計画どおり以下の事項を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第83回通常総代会開催に際し総代会傍聴について掲載した「開催のお知らせ」を全店に掲示。(6/7～6/22)</li> <li>・第83回通常総代会において傍聴人席を設置。</li> <li>・会員宛送付した「出資配当金のご案内」及び「業務報告書」に同封した「第83回通常総代会決議のご通知」に総代会制度の概略を掲載。</li> <li>・7月発行の2005年版ディスクロージャー誌に総代会制度について継続掲載。</li> <li>・「会員を中心としたお取引先との意見交換会」を上期中5回開催し、総代以外の意見を理事長が直接聴取。</li> </ul> <p>当金庫の調査では総代会及び総代会傍聴制度の認知度は高いとは言いがたい面がありますが、上記取組み策の継続実施により、今後の認知度が向上することを期待しています。また「意見交換会」において参加者から積極的な意見を頂いており、今後経営施策へ有効に反映させていくことを考えています。</p>
(4) 法令等遵守(コンプライアンス)態勢の強化	営業店に対する法令等遵守状況の点検強化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス統括担当部署と監査部が臨店結果の情報を共有化して、連携して法令等遵守の取組みを強化します。</li> <li>・全職員が毎月コンプライアンスチェックリストにより自己評価を行い、改善事項があれば役職者が直接指導する体制を定着化し、またコンプライアンス臨店指導時に職員へのヒアリングを通じて、理解不足等改善事項の有無等について確認・指導を実施し、法令等遵守の強化を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス統括担当部署による全営業店臨店指導を行います。(上期・下期各々)</li> <li>・監査部による現物検査を実施します。</li> <li>・監査部による定例及び不良店舗の再臨店検査を行います。</li> <li>・監査部による内部監査及びフォローアップ監査を行います。</li> <li>・「不祥事件未然防止のための全店一斉点検」を実施します。</li> <li>・営業店職員によるコンプライアンスチェックリストに基づく自己評価を毎月実施します。</li> </ul>	<p>計画どおり以下の事項を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務部によるコンプライアンス臨店指導を全店実施。</li> <li>・監査部事務検査課による定例検査(18店舗19拠点)現物検査(10店舗)再臨店検査(2店舗)</li> <li>・監査部監査課による定例監査(1店舗)</li> <li>・「不祥事件未然防止のための全店一斉点検」による営業店自主検査(8月)</li> <li>・全職員がコンプライアンスチェックリストによる自己評価実施。</li> </ul> <p>以上の実施の中でコンプライアンス臨店指導時に職員に直接ヒアリングし指導した結果、職員のコンプライアンス意識向上につながりました。</p> <p>今後も総務部及び監査部による臨店指導により法令遵守状況確認を継続しコンプライアンスの実効性を確保していきます。</p>

要請事項		取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
			17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
	適切な顧客情報の管理・取扱いの確保	<p>個人データへのアクセス権限・制御等、システムのセキュリティの充実、及び個人情報記録媒体の削減を図ります。</p> <p>また、個人情報の取扱いについての詳細な運用ルールを明確化し、規程等の充実を図ると共に、定められたルールに従った運用が行われているかの検証、及び職員への啓蒙・指導の強化を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部への営業店集中ファイルサーバの導入を段階的に行います。</li> <li>個人情報保護事務取扱マニュアル、FAX取扱マニュアルの制定及び通知等による周知・指導を行います。</li> <li>コンプライアンスチェックリストによる自己評価と指導（毎月実施）及びコンプライアンス統括担当等の臨店による確認・指導を行います。</li> <li>事務部による臨店指導を実施します。</li> <li>監査部による一斉臨店監査を実施します。</li> </ul>	<p>以下の事項を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月の個人情報保護法全面施行に合わせた個人情報保護管理規程をはじめとする各種管理規程制定の他、個人情報保護事務取扱マニュアル、FAX取扱マニュアルの制定を行い更に周知・指導を行いました。</li> <li>全職員がコンプライアンスチェックリストにより自己評価を実施しました。</li> <li>総務部（コンプライアンス担当部署）により全43店舗の臨店を行い、顧客情報の取扱いに関する確認と指導を実施しました。（本部は下期実施予定）</li> <li>事務部臨店により個人情報保護態勢の確認・指導を実施しました。（14店舗実施）</li> <li>監査部による個人情報一斉監査を実施しました。（本部・営業店・関連会社）</li> </ul> <p>ファイルサーバの導入、コンプライアンス担当部署による本部臨店等に一部遅れが生じましたが、個人情報保護態勢に重大な影響を及ぼすものではなく概ねスケジュールどおりの進捗と認識しています。</p> <p>また、下期においては個人情報保護に特化した事務部による特別臨店（ヒアリング中心）を実施する予定です。</p> <p>監査部による監査では上期指摘事項の改善状況の検証及び本部関連部の施策実施状況の検証を実施していきます。</p>
(5) ITの戦略的活用		<ul style="list-style-type: none"> <li>「ITの戦略的活用検討委員会（仮称）」を設置し、過去（3年間程度）のIT投資効果の検証を行った上で、金庫業務の改善を念頭においた今後の大局的なIT投資計画を策定します。</li> <li>共同オンラインシステム関連機器の更新をします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ITの戦略的活用検討委員会（仮称）」を立上げ・検討を開始します。</li> <li>共同オンラインシステム機器の更新をします。</li> </ul>	<p>オンライン機器の更新について機関決定を得て17年度下期から18年度にかけて実施に移していきます。</p> <p>また、「ITの戦略的活用検討委員会」は立上げに至っていませんが、下期に策定する中期経営計画にIT投資の戦略的活用についても織り込んでいきます。</p>

要請事項	取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
		17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
(6) 協同組織中央機関の機能強化	市場リスク管理態勢の強化及び信金中金の提供する余裕資金運用手段の一層の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場関連リスクの高度化を進めます。</li> <li>統合リスク管理態勢確立を目指し、リスク管理からリスクテイク許容範囲の中で如何に収益性を向上させるかを睨んだリスクマネジメントへ発展させます。</li> <li>バーゼル でのアトライア-規制に対応すべく情報収集を図ると共に、銀行勘定の金利リスク量算出の精度を高めていきます。</li> <li>信金中金から出される収益性の高い商品での資金運用を視野に入れていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種セミナー等へ参加し、リスク管理の高度化、アトライア-規制、統合リスク管理に関する情報収集及び研究を進めます。</li> </ul> <p>証券会社担当者を講師に招く等して新BIS規制とリスク管理の高度化について研究を進めてきましたが、未だ十分なものとは認識しておりません。今後ともセミナー等への参加・信金中金からの情報収集等により研究を進めていきます。</p>

### 【3. 地域の利用者の利便性向上】

本項目については、信用金庫経営にあっては、地域の利用者の方の声を経営に活かしていくことが極めて重要であるとの認識を新たにして取組み、概ね計画どおりに進捗しております。特に、利用者の方にアンケート調査を行い、現在その内容を分析中ですが、自分達では気づいていなかった様々なご意見やご要望が寄せられており、今後ご要望内容を多面的に検討して、経営改善や商品・サービスの充実に活かしていきます。

以下、詳細について個別の取組み事項単位でご報告致しますが、記載してあります17年度スケジュールは年間ベースですのでお含み置き願います。

### 【要請事項単位の具体的取組みと進捗状況】

要請事項	取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
		17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
(1) 地域貢献に関する情報開示	地域貢献に関する情報開示	ディスクロージャー誌への地域貢献情報記載を充実させていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスクロージャー誌・ミニディスクロージャー・半期ディスクロージャー誌における地域貢献情報の記載内容の検討及び発行を行います</li> </ul> <p>2005年版ディスクロージャー誌は7月27日に発行しましたが、地域貢献情報は従来にも増して内容を充実させました。また、17年9月期の半期開示においてもランクアップ実績について先数のみではなく業種別・要因別に記載することを決定しました。今後とも地域貢献に関する情報開示の充実について検討していきます。</p>

要請事項		取組み方針	17年度スケジュールと進捗状況	
			17年度スケジュール	17年度上期進捗状況と今後の課題等
	充実したわかりやすい情報開示の推進	利用者の方の有している疑問点等にこたえることができる情報開示を進めていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の方からの質問や相談について営業店に調査を行います。</li> <li>・苦情処理担当部署である営業推進部から苦情内容について調査を行います。</li> <li>・調査結果についてジャンル別にQ &amp; A方式に取り纏め11月発行の半期ディスクロージャー誌に掲載します。</li> </ul>	17年9月期の半期開示内容について経営企画部内で検討を進め「お客さまからよくあるご質問のQ & A」を追加掲載することを決定しました。また、本項目を追加掲載するために全営業店にお客さまからよくある質問等についての調査を行いました。上記の内容を記載した半期ディスクロージャー誌は17年11月に発行し、充実した分かりやすい情報開示は進捗したと認識していますが、今後とも利用者の有している疑問にこたえることができる分かりやすい情報開示を進めていきます。
(3)	地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立	利用者の方の真のニーズを汲み取り、また満足度を把握した上、経営施策に活かしていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者満足度調査の実施内容を検討の上、実施・分析し17年度の経営施策へ反映します。</li> </ul>	「利用者満足度の向上に向けた取組みへの対応について」機関決定を受けました。その中でアンケート調査の実施をも織り込みアンケート内容についての決定も受けました。上期は利用者の満足度を重視した経営への準備段階ではありましたが、計画どおり進捗し、下期にはアンケート調査結果等を十分に分析して、経営改善や商品・サービス内容の充実について検討し17年度中に実行可能なものは実行し、必要性はあるものの17年度中の実行が困難なものは中期経営計画等に反映させていきます。
(4)	地域再生推進のための各種施策との連携等	県・各市町村の「まちづくり」関連部署と情報交換を行い、各市町村の中心市街地活性化支援事業及び商店街活性化支援事業をサポートしていきます。また、地域活性化に向けた新しい融資スキームとしてPFIを検討し、地域におけるPFIへの取組みを支援できる体制を整備していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県・各市町村の「まちづくり」関連部署と関係を構築し、情報交換をします。</li> <li>・旧静岡市「駅前再開発事業」への関与を検討します。</li> <li>・信金中金によるPFI勉強会及び情報交換を実施します。</li> </ul>	静岡県・静岡市の関連部署を訪問し、担当者との関係を構築しました。PFI事業については、まず地方公共団体担当者並びに信金中金との連絡を密にしていきます。また、信金中金担当者による勉強会も開催し、職員の情報感度も高めています。

最後に

以上当金庫の「地域密着型金融推進計画」の17年度上期に進捗状況についてご報告させて頂きました。前述のとおり計画は概ね順調に進捗しておりますが、残された課題も数多く残されており、17年度下期から18年度にかけて課題クリアに向けて前向きに真摯に取り組んで参ります。

以 上